

報告第 4 号

市地域公共交通網形成計画の策定にかかる  
基礎調査の結果について（中間報告）

# 地域公共交通網形成計画とは？

地域公共交通の現状・問題点・課題の整理を踏まえて、公共交通ネットワーク全体を一体的に形づくり、持続させることを目的とした、地域全体の公共交通の在り方、住民・交通事業者・行政の役割を定める地域公共交通のマスタープランとなる計画です。



可児市においては、コミュニティバスの在り方を示した現行の「可児市生活交通ネットワーク計画」の計画期間が平成30年6月までとなるため、新たな計画として、公共交通が相互に連携し、持続可能な交通網を構築するための計画を策定します。

# 基礎調査について

平成29年度は基礎調査として、市の現状の調査、市民アンケート、利用者アンケート、各種団体へのヒアリングを行い、「地域公共交通の問題点や課題、市民ニーズ」などを整理する。

## 基礎調査の内容

### ○可児市の地域概況や公共交通の現状整理

- ・ 可児市の地域概況の把握、上位関連計画の整理
- ・ 公共交通のサービス水準や利用状況等の整理

### ○各種調査

- ・ 市民アンケート：15歳以上の市民3,000人を対象  
（回答者数 1,113票 回収率 37.1%）
- ・ 利用者アンケート （回答者数 365票）
- ・ 乗降調査：東鉄路線バス、コミュニティバス  
（回答者数 1,373人）
- ・ 交通事業者へのヒアリング 2事業者
- ・ 各種団体へのヒアリング 13団体

# 本市の公共交通

## 鉄道

JR 太多線

美濃太田駅-多治見駅間

名鉄 広見線

犬山駅-御嵩駅間

## 路線バス

東濃鉄道

路線バス・高速バス

## 一般タクシー

## コミュニティバス

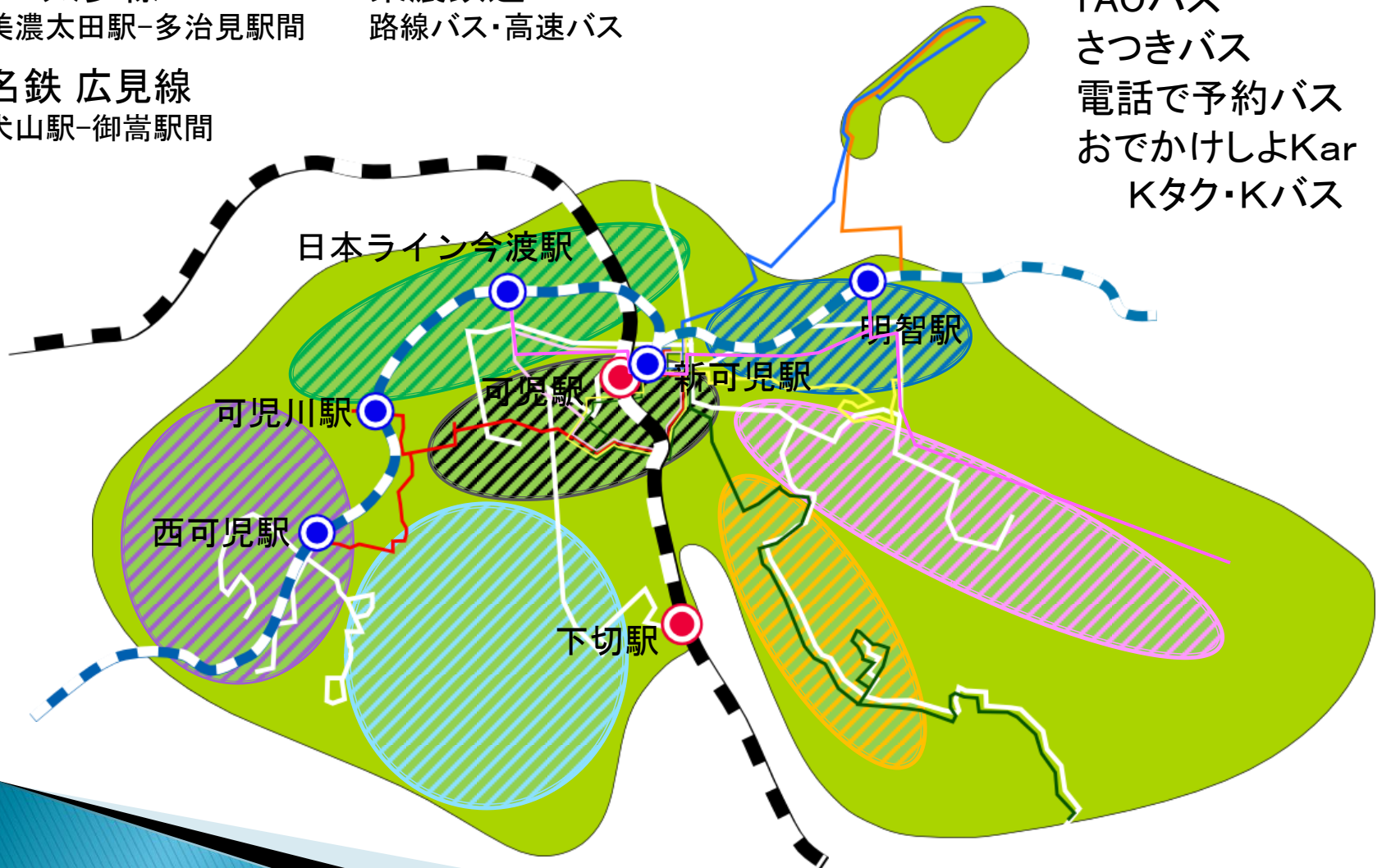
YAOバス

さつきバス

電話で予約バス

おでかけしよKar

Kタク・Kバス



# アンケート調査結果

## 鉄道

○市民アンケートの回答者の内、JR太多線は32.3%、名鉄広見線は51.6%が利用している。

○利用していない方の利用可能となる条件

- ・ 駅周辺の駐車場が利用しやすければ
- ・ 自宅から駅まで行ける公共交通手段があれば
- ・ 鉄道と他の交通手段との乗り継ぎがしやすければ

○期待する役割

- ・ 名古屋市やその周辺市町へ移動しやすいこと

# アンケート調査結果

## 東鉄バス

- 市民アンケート回答者の内、高速バスは21.4%、路線バスは13.7%利用している。
- 通勤や通学での利用が多く、利用者アンケートで66.8%、乗降調査で55.2%あった。
- 利用していない方の利用可能となる条件
  - ・ 運行本数が多ければ
  - ・ 自宅や目的地などから最寄りのバス停まで近ければ
  - ・ バス停まで自転車や徒歩で安全に行くことができれば
- 期待する役割
  - ・ 自家用車が利用できなくなったときに利用できること

# アンケート調査結果

---

## 一般タクシー

○市民アンケート回答者の内、31.0%が利用していた。

○利用していない方の利用可能となる条件

- ・ 運賃が安ければ
- ・ 運賃割引があれば
- ・ 駅や主要施設にタクシーが待機していれば

○期待する役割

- ・ 自家用車が利用できなくなったときに利用できること

# アンケート調査結果

---

## Y A Oバス

- 市民アンケート回答者の内、2.4%が利用している。
- 利用者アンケート、乗降調査より、通学での利用が大部分を占め、20歳以下の利用者の割合が61.2%であった。
- 利用していない方の利用可能となる条件
  - ・バス停まで自転車や徒歩で安全に行くことができれば
  - ・運行本数が多ければ
  - ・公共交通の情報・案内がわかりやすければ
- 期待する役割
  - ・自家用車が利用できなくなったときに利用できること



# アンケート調査結果

## さつきバス

- 市民アンケート回答者の内、6.0%が利用している。
- 利用者アンケート、乗降調査より、通院・検診や買物での利用が多く、60歳以上の利用者の割合が78.8%であった。
- 利用していない方の利用可能となる条件
  - ・ 運行本数が多ければ
  - ・ 自宅や目的地などから最寄りのバス停まで近ければ
  - ・ 鉄道や他の路線との乗り継ぎ時間が合えば
- 期待する役割
  - ・ 自家用車が利用できなくなったときに利用できること

# アンケート調査結果

## 電話で予約バス

- 市民アンケート回答者の内、2.5%が利用している。
- 利用者アンケート、乗降調査より、すべての地区で通院・検診や買物での利用が多い。
- 利用していない方の利用可能となる条件
  - ・バス停にベンチや屋根が整備されていれば
  - ・自宅や目的地などから最寄りのバス停まで近ければ
  - ・バス停まで自転車や徒歩で安全に行くことができれば
- 期待する役割
  - ・自家用車が利用できなくなったときに利用できること

# アンケート調査結果

## おでかけしよK a r Kタク・Kバス

○市民アンケート回答者の内、1.5%が利用していた。

○利用していない方の利用可能となる条件

- ・バス停まで自転車や徒歩で安全に行くことができれば
- ・公共交通の情報・案内がわかりやすければ
- ・利用方法がわかれば

○期待する役割

- ・自家用車が利用できなくなったときに利用できること

# アンケート調査結果

---

## 公共交通全体について

○公共交通の満足度については、回答者の15.0%が「やや満足」「満足」と回答し、20.2%が「やや不満足」「不満足」と回答しており、53.1%が「どちらとも言えない」と回答している。

○コミュニティバスの費用負担の在り方については、回答者の33.7%が「市の負担額は現状程度良い」と回答しており、次いで21.6%が「運行本数の増加など、利便性の向上は必要だが、利用者負担（運賃）の増加により対応すべき」との回答が多かった。

# 交通事業者ヒアリング

---

交通事業者：東濃鉄道株式会社、可児タクシー株式会社

## ○さつきバス

- ・可児駅から鉄道への乗り継ぎを便利にしたい。
- ・1日乗車券があっても良いのでは。

## ○電話で予約バス

- ・電話による予約が面倒だという意見があり、固定客の利用が増えている。

## ○東鉄路線バス、高速バス

- ・高速バスは可児市区間の利用は少ない。

# 各種団体ヒアリング

---

## ○福祉運送事業者、移動支援事業者

- ・すべての事業が利用者登録制である。
- ・通院・検診や買物での利用が多い。
- ・移動支援事業については、地区の社会福祉協議会が主体で行っているが、若葉台地区のみ高齢福祉連合会が主体である。

## ○高齢者団体（サロン）、子育て世代

- ・団体所属者のほとんどが自家用車を利用しているが、自家用車が利用できなくなった場合は、公共交通を利用したいとの意向があった。
- ・コミュニティバスについては、「利用方法がわからないため、利用できない」や「バス停やパンフレットの表示をわかりやすくしてほしい」との意見が多くあった。
- ・公共交通で移動したい場所については病院や商業施設（買物）の希望が多かった。

# 各種団体ヒアリング

---

## ○障がい者団体

- ・ 団体所属者のほとんどが自家用車を利用しているが、自家用車の利用ができなくなった場合は、公共交通を利用したいとの意向があった。
- ・ コミュニティバスについては、「バリアフリー化」や「バス停の待合場所の整備」について意見があった。
- ・ 公共交通で移動したい場所については、病院や公共施設の希望が多かった。

## ○障がい者施設

- ・ 障がいの度合いによっては、他の人と一緒に乗車するのは難しい人もいる。
- ・ バスの利用方法がわからない障がい者が多く、利用が少ない。
- ・ 支援学校で就労を目指す高校生やその保護者に対してコミュニティバスのPRをしてはどうか。

# 各種調査からみえる傾向

---

- 市内の公共交通としては、鉄道・路線バス・タクシー・コミュニティバスがある他、福祉的な移動手段として福祉運送、移動支援など多様な公共交通が運行されている。一方で一部には運行の重複がみられる。
- 鉄道の利用者が非常に多く、本市と名古屋市等の市外をつなぐ重要な交通手段となっている。
- バスは自家用車が利用できなくなったときの代替として期待されている。
- 公共交通（主にコミュニティバス）の周知や停留所やパンフレットの表示について、改善点がある。
- バス停の待合所の整備が望まれている。



# 今後の予定（計画）

---

今後はさらなる市民ニーズや問題点、課題を踏まえて、市のまちづくりの目指す方向を明確にし、公共交通の役割を整理していきたい。

平成30年3月      課題の整理と基礎調査のまとめ

平成30年度      基礎調査を踏まえ地域公共交通網形成計画の策定